

土地利用別の沈香木分布

金沢謙太郎（神戸女学院大学）

・ 課題と方法

昨年の原始的森林における調査に引き続き、商業伐採と焼畑の跡地における沈香木個体の分布状況について調査した。調査対象地は、サラワクのバラム河上流域に位置するプナン人のバ・ライ村（Ba Lai）周辺である。彼らの主たる生業は狩猟採集である。フィールド調査に際して、村の男性、Raymond Pet 氏に同行、協力いただいた。地理的位置と面積の推定には Garmin 社製の GPS (MAP60-CS-AP) と PC 表示ソフト (Trip and Waypoint Manager ver. 6.0) を利用した。

・ 結果と考察

約 90ha の原始的森林では、73 本の沈香木個体（ジンチョウゲ科ジンコウ属 *Aquilaria beccariana*）を記録した。これに対して、商業伐採後 8 年を経過した森林約 50ha では、2 本であった。また、焼畑後 10 年未満の森林約 40ha ではゼロである。焼畑跡地 15 年を経過した森林約 10ha では、1 本を記録した。バ・ライ村の人びとが認識している村の境界内にはおよそ 18,000ha の原始的森林が残っており、その中には約 15,000 本の沈香木が分布していると推測される。仮にここに商業伐採が入れば、沈香木は激減するであろう。

・ 地域情勢の変化

2004 年 10 月 18 日、バ・ライ村に隣接する 55,949ha について、Samling Plywood 社は MTCC という木材認証を受け、伐採を開始した。また、隣接する別の 59,817ha は、2005 年 1月 10 日、Pulong Tau 国立公園として登録された。なお、プナン人は MTCC による伐採に強く抗議している。また、国立公園化に対しては、狩猟採集行為が継続できる緩衝地帯の設置を当局に求めている。

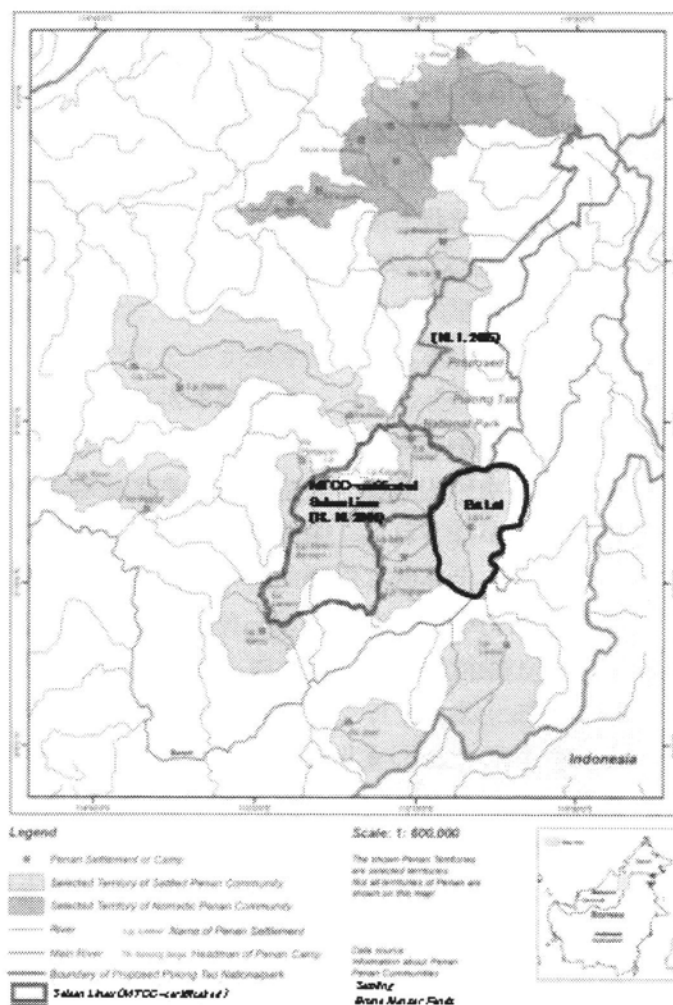


図1. バ・ライ村周辺地図